

平成 27. 6. 17

猫背、腕をまっすぐ上げられない、しゃがむと後ろに転ぶ…。体が硬く、バランスが悪い子どもが目立ち始めている。長時間同じ姿勢でゲームを続けたり、外遊びが少なくなったことが関係しているという。将来、介護が必要になりかねないと懸念する声もある。国は来年度から学校健診に手足の運動機能に関する検査を加え、対策に乗り出す。



ゲーム機で遊ぶきょうだい
(本文とは関係ありません)

ゲーム熱中、運動不足の子ども

将来は要介護？

4月、埼玉県の整形外科医院を5歳の男の子が「腰痛」で受診した。背中が曲がり、おなかの前に突き出た姿勢。ゲームで遊んだり、スマートフォンを使ったりして下を向いている時間が長く、普段ほとんど体を動かしていなかった。

いるときに、着地でバランスを崩し両手首を内側に曲げたままついたため、骨折した女子小学生などを診察した。

「外遊びが減り、蛇口をひねる、ドアノブを回す、雑巾を絞るなど、日常生活での細かい動作も少なくなったためでは」と林医師。

「年を取った時に運動機能が衰えていると要介護の危険が増す。このままでは先が思いやられる」

診察した埼玉県整形外科医会会長の林承弘医師は「疲れや肩こりなど、子どもとは思えないような症状の患者が珍しくない」と話す。ほかにも馬跳びをして

矯正後

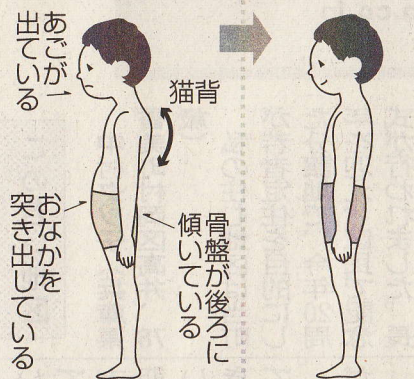
来年度から 学校健診に手足の状態みる検査

13年に、幼稚園や小中学校で実施した検診でも心配な結果が出た。調べたのは「5秒以上の片足立ち」「しゃがむ」「手をまっすぐ上げる」「膝を曲げずに指先を床に着ける(体前屈)」の4項目。1

343人のうち、体前屈ができない割合が23%、1項目でもできない割合は42%に上った。

全国養護教諭連絡協議会の濁川こず枝前会長によると、最近学校で増えたのは、転んだ

整形外科への受診例(5歳男子)



腰痛で受診したときの姿勢

矯正後



検診を受ける子ども＝埼玉県鴻巣市

国は来年4月から、小中学校などの学校健診で、四肢の状態をみる検査を義務付ける。文部科学省は今夏をめどに検査内容やマニュアルをまとめる予定。必要に応じて専門医に喚起をする方針だ。